



宇部興産株式会社説明会

技術の翼と革新の心。
世界にはばたく私たちのDNAです。

2018年11月

宇部興産株式会社

I 宇部興産の概要

II 中期経営計画の進捗

III 株主還元の考え方

I

宇部興産の概要



- ◆社名 宇部興産株式会社
- ◆創業 1897（明治30）年6月
- ◆設立 1942（昭和17）年3月
- ◆代表者 山本 謙



- ◆本社 (東京) 東京都港区芝浦
(宇部) 山口県宇部市
- ◆売上高 6,955億円 (2018年3月期)
- ◆営業利益 502億円 (2018年3月期)
- ◆純資産 3,368億円 (2018年3月期)
- ◆連結子会社数 70社 (2018年3月期)
- ◆連結従業員数 10,799人 (2018年3月期)
- ◆上場取引所 東京・福岡 (1949年上場)
- ◆単元株式数 100株

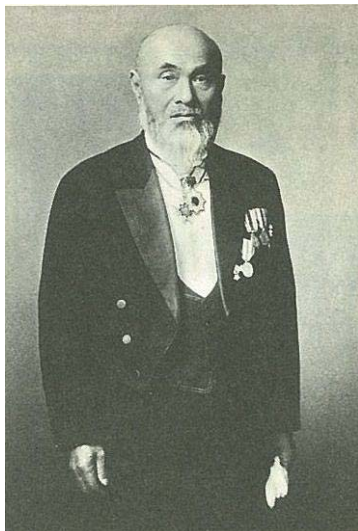
経営理念：

「共存同栄」「有限の鉱業から無限の工業へ」

グループビジョン：

技術の翼と革新の心。世界にはばたく私たちのDNAです。

フロンティアスピリットを胸に無限の技術で世界と共生するUBEグループは、モノづくりを通して次代の価値を創造し続けます。



初代社長 渡辺 祐策

UBEグループは1897年、発祥の地、宇部で始めた石炭採掘事業以来、時代と産業構造の変化に対応し、常に自己変革を行ってきました。

その中で一貫して変わらなかった価値—それが「技術」と「革新」です。

独創的な技術力による「モノづくり」中心の事業活動と、時代を先取りし、変化を怖れないチャレンジ精神は、現在もUBEグループ共通の価値観として、脈々と受け継がれています。

■ 経緯

- 2018年 2月23日 低密度ポリエチレン製品における不適切行為を公表
- 2018年 6月 7日 調査報告書、再発防止策、役員報酬減額を公表
- 2018年 10月 2日 補充調査の完了ならびに一連の調査の完了を発表

■ 再発防止策

1. 取締役会は品質に関わるガバナンスを強化する
2. 経営陣は、品質重視の姿勢を明確にし、意識改革に率先して取り組む
3. 当社グループ構成員に「品質に対する意識」「お客様目線での判断」を植え付け、風土改革を図る
4. 当社グループの品質保証に関する統制と関連部署間の連携強化を図る
5. 品質に関する基盤を強化する

120年の歴史

経営理念：「共存同栄」「有限の鉱業から無限の工業へ」



事業概要（事業別売上高シェアと主要製品）

➤ 2017年度 連結売上高：6,955億円

化学

売上シェア44%
(3054億円)



- 合成ゴム
- ナイロン樹脂／原料
- 工業薬品
- 電池材料
- ファインケミカル
- ポリイミド
- 機能性材料

医薬

売上シェア1%
(102億円)



- 自社医薬（創薬）
- 受託医薬
- ジェネリック

建設資材

売上シェア34%
(2,388億円)



- セメント／生コン
- 各種建材
- カルシア／マグネシア

機械

売上シェア13%
(901億円)



- 成形機（射出成形機／ダイカストマシンなど）
- 産業機械
- 橋梁

エネルギー・環境

売上シェア10%
(713億円)

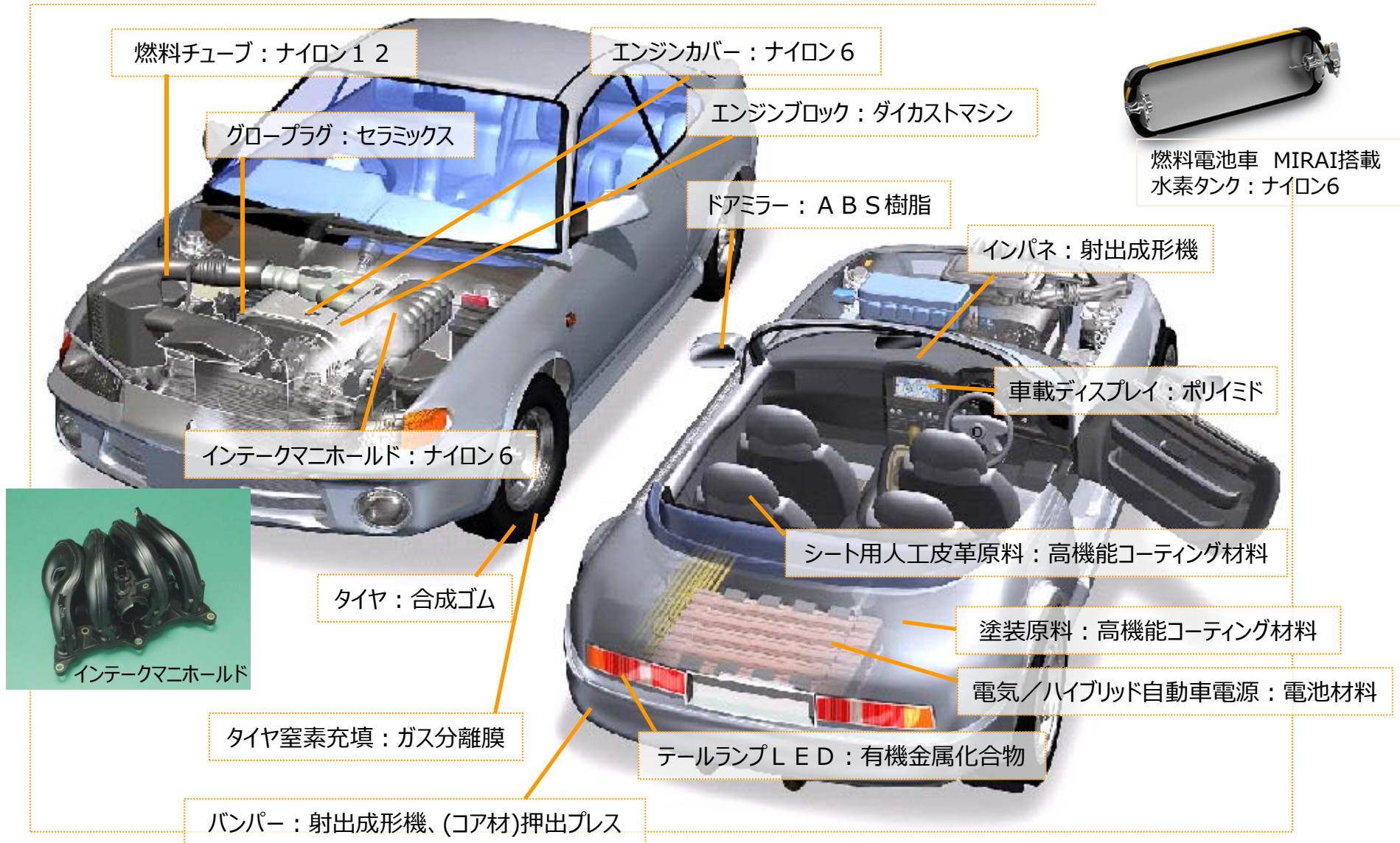


- 石炭貯蔵／販売
- 自家発電／売電

※

※：事業間の内部売上等があるため、シェアを合計しても100%にはなりません

身近なUBE製品① -自動車-



身近なUBE製品② (航空・宇宙、エネルギー・環境、一般産業、インフラ)



身近なUBE製品③ -医療・生活関連-



サッシ：押出プレス

防水材

バスマット

入浴剤

ゴルフボール、靴底：合成ゴム

保存容器：ポリエチレン

食品ラップフィルム

便座、洗面台：ABS樹脂

食品ラップフィルム

電動工具、電動自転車：電池材料

食品パッケージフィルム：ナイロン6

壁材

スポーツ靴：特殊ナイロン

化粧香料：ヘリオフレッシュ®

床材：セルフレベルング材

薬：医薬原体・中間体

合皮ソファ：高機能コーティング材料

カーペット：カプロラクタム

カルブロック®

タリオン®

エフィント®

全国の事業所



宇部地区主力工場地帯



伊佐セメント工場



建材事業
札幌建材営業所

北一化学

北海道宇部

北見宇部

釧路宇部
別海宇部

北海道宇部運送

建設資材事業
東北建材営業所

- 宇部本社
- 基盤技術研究所
- 医薬研究所
- 宇部ケミカル工場
- 宇部藤曲工場
- 宇部セメント工場
- 技術開発研究所
- 沖の山コールセンター

伊佐セメント工場

苅田セメント工場

建設資材事業
九州建材支店

建設資材事業
広島建材支店

大阪支店
名古屋支店

堺工場
大阪研究開発センター

千葉石油化学工場
先端技術研究所

東京本社
宇部三菱セメント(株)

堺工場

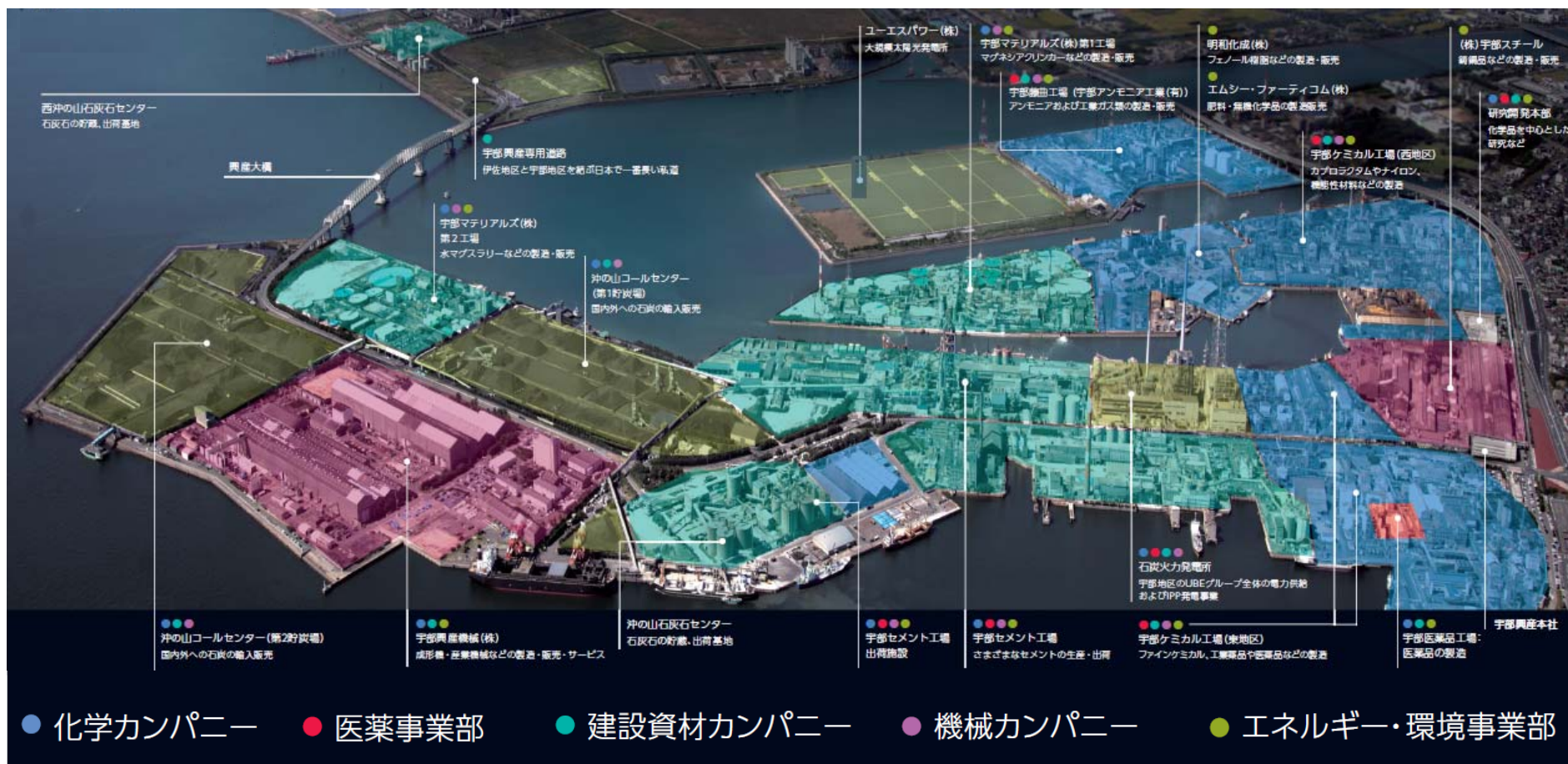


宇部地区工場群のつながり



宇部興産は、創業以来、宇部の地で地域住民との共生を図りながら、事業に取り組んできました。UBEグループの生産の本拠地であり、創業の地でもある宇部地区に石炭の貯蔵基地から化学工場、医薬品工場、セメント工場、機械製作所、発電所、研究所までが集積していることが大きなメリットをもたらしています。

- インフラの共有による優れた競争力、環境負荷の低減
- セグメント間の連携が可能
- 豊富な水資源や大型船の着岸できる港などにも恵まれた立地



全世界の拠点



'18年度の業績予想（主要項目）



化学部門・機械部門の拡販等により増収となるが、大規模定期修理の実施や石炭をはじめとする原燃料価格アップにより、増収減益の見通し

（単位：億円）

| 項目 | '17年度 | '18年度 | 差異 |
|---------------------|-------|-------|--------|
| 売上高 | 6,955 | 7,400 | 445 |
| 営業利益 | 502 | 440 | △62 |
| 経常利益 | 507 | 455 | △52 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 316 | 305 | △11 |
| 有利子負債 | 1,955 | 1,850 | △105 |
| 自己資本 | 3,153 | 3,340 | 187 |
| 自己資本利益率（ROE） | 10.5% | 9.4% | △1.1% |
| D/E レシオ | 0.62倍 | 0.55倍 | △0.07倍 |

II

中期経営計画の進捗

Change & Challenge 2018

■ 持続的成長を可能にする経営基盤の強化

- 利益率を強く意識。コストダウンを徹底。既存商品の収益力向上を図る
- 連結キャッシュフロー重視は堅持。成長のための投資を実施
投資案件の成果を確実に刈り取る
- 海外拠点の拡充と国内外グループ会社の連携深化。グローバルな事業環境の変化にスピーディに対応
- 化学部門の復活と更なる成長に向け、営業利益200億円レベルまで回復。
次の成長ステージの出発点に立つ

■ 資源・エネルギー・地球環境問題への対応と貢献

- サプライチェーン全体で、エネルギー使用量削減・廃棄物利用拡大による
温室効果ガス(GHG)削減
 - ➡ 2021年度目標：温室効果ガス 15 %削減（2005年度比）
- 環境負荷低減に貢献する技術・製品の創出・拡大

■ 主要項目

| 項目 | 単位 | '16年度 実績 | '17年度 実績 | '18年度予想 | | '18年度 原計画 |
|---------------|----|-------------|-------------|---------|-------|--------------|
| | | | | | 2Q | |
| 売上高 | 億円 | 6,165 | 6,955 | 7,400 | 3,482 | 7,500 |
| 営業利益 | 億円 | 349 | 502 | 440 | 150 | 500 |
| 経常利益 | 億円 | 333 | 507 | 455 | 186 | 490 |
| 親会社に帰属する当期純利益 | 億円 | 241 | 316 | 305 | 123 | 290 |
| 有利子負債 | 億円 | 2,104 | 1,955 | 1,850 | 1,923 | 2,000 |
| 自己資本 | 億円 | 2,865 | 3,153 | 3,340 | 3,225 | 3,200 |

■ 経営指標

| 項目 | 単位 | '16年度 実績 | '17年度 実績 | '18年度予想 | | '18年度 原計画 |
|----------|----|-------------|-------------|---------|------|--------------|
| | | | | | 2Q | |
| D/Eレシオ | 倍 | 0.73 | 0.62 | 0.55 | 0.60 | 0.65 以下 |
| 自己資本比率 | % | 40.4 | 42.4 | 44.5 | 43.9 | 40.0 以上 |
| 売上高営業利益率 | % | 5.7 | 7.2 | 5.9 | 4.3 | 6.5 以上 |
| 自己資本利益率 | % | 8.7 | 10.5 | 9.4 | — | 9.0 以上 |

セグメント別売上高・営業利益の計画と進捗



- ・石炭等の原燃料価格の上昇により、18年度計画は未達の見込だが、
打つべき対策の着実な実行により、化学部門の復活は実現。次のステージへ

(単位：億円)

| セグメント | 売上高 | | | | | 営業利益 | | | | |
|--------------|---------------|---------------|-----------|-------|----------------|---------------|---------------|-----------|-----|----------------|
| | '16年度 (実績) | '17年度 (実績) | '18年度(予想) | | '18年度 (原計画) | '16年度 (実績) | '17年度 (実績) | '18年度(予想) | | '18年度 (原計画) |
| | | | | 2Q | | | | | 2Q | |
| 化学 | 2,583 | 3,054 | 3,200 | 1,516 | 3,450 | 96 | 289 | 225 | 82 | 200 |
| 医薬 | 109 | 102 | 100 | 33 | 90 | 24 | 21 | 5 | △0 | 5 |
| 建設資材 | 2,272 | 2,388 | 2,500 | 1,194 | 2,500 | 162 | 123 | 125 | 45 | 200 |
| 機械 | 716 | 901 | 1,000 | 432 | 830 | 36 | 55 | 60 | 13 | 65 |
| エネルギー ・環境 | 597 | 713 | 800 | 385 | 730 | 28 | 23 | 25 | 10 | 35 |
| その他 | 125 | 47 | 50 | 22 | 180 | 7 | 8 | 10 | 2 | 10 |
| 調整額 | △239 | △252 | △250 | △102 | △280 | △7 | △19 | △10 | △3 | △15 |
| 計 | 6,165 | 6,955 | 7,400 | 3,482 | 7,500 | 349 | 502 | 440 | 150 | 500 |

18年度 前提条件 (環境要因)

→為替110円/ドル、ナフサ (CIF) 540ドル/t、豪州炭 (CIF) 74.5ドル/t

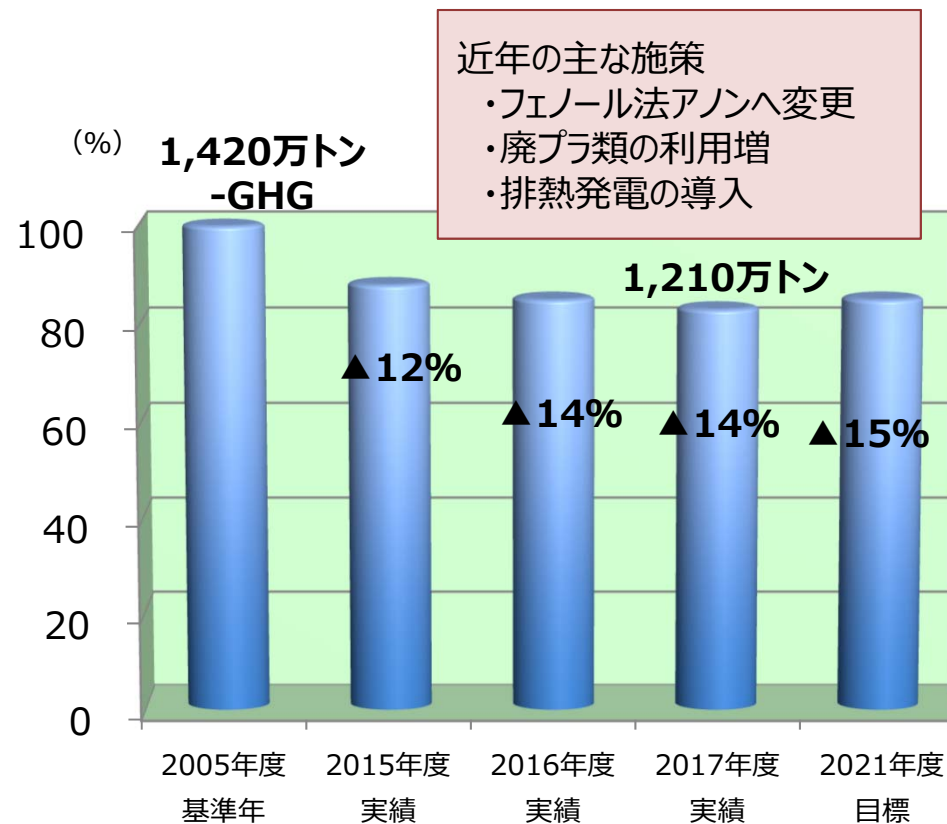
■ 資源・エネルギー・地球環境問題への対応と貢献

持続可能な社会の実現に向け、経済性に配慮しサプライチェーン全体でエネルギー使用量削減・廃棄物利用拡大による温室効果ガス削減や、環境負荷低減などに貢献する技術・製品の創出・拡大を推進します。



苅田工場の排熱発電設備

(国内UBEグループ+海外主要事業所)



目標：2021年度までに2005年度比15%削減

■ 総売上高に対する割合

□ : 主な貢献型製品

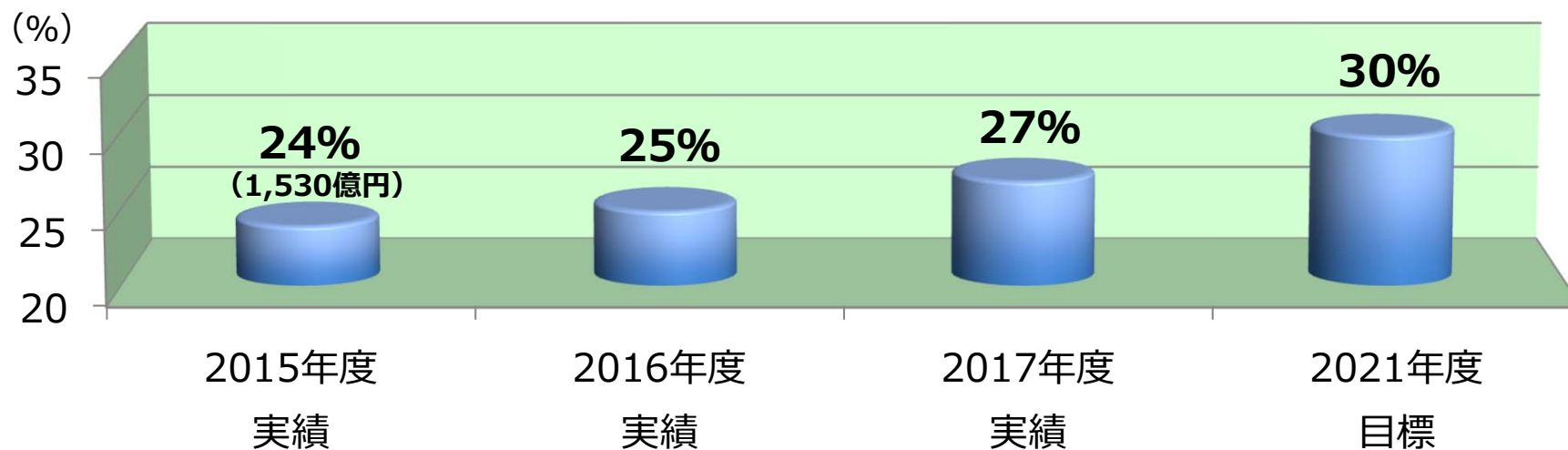
- 合成ゴム（タイヤ用途）
- ナイロン（自動車用途）
- **リサイクル事業**
（セメント・資源リサイクル）
- 省エネ機器
（成形機・エア浮上コンベア）
- LIB電解液
- **LIBセパレータ**
- ポリイミド製品
- ガス分離膜
- **バイオマス燃料**
- 高機能コーティング



UBEナイロン樹脂製水素タンク



LIBセパレータ



2021年度までに売上げ比率30%以上を目指す

■ Co2等の排出量が少ない電気自動車（EV）、ハイブリッド車（HV）等の販売台数は増加中



■ EV、HV等は、リチウムイオン電池で動く仕組み



■ リチウムイオン電池の主要部材であるセパレータは、車載向けを中心に拡販中



■ セメント主要原料で代替のきくものは、同様の成分を含む廃棄物の組み合わせで代替し、天然原料（粘土・珪石など）の枯渇を防止



■ 建設発生土、廃プラスチック、汚泥等の廃棄物をセメントの原料成分等として取り込むことで、埋め立て処分場の延命に貢献。廃棄物を高温で焼くことで発生する灰も、セメント原料として利用



■ さらに廃棄物処理収入を得ることで、会社の利益拡大にも貢献

セメント1トン当たり
447kgの廃棄物・副産物を利用



■ 木質炭化燃料「**トレファイドペレット**」とは

当社の開発品で、木材を加工するときに出るおが屑などを原料として炭化した燃料。石炭火力発電所などで石炭と混ぜて使用することで、石炭の使用量を減らし、Co2等の排出量を削減できる。自社利用は勿論、販売することで、顧客のCo2等の排出削減にも貢献。



- ・実証設備の建設に着手。2019年10月生産開始予定



- ・まずは自社で利用し、使用ノウハウ等を蓄積した後、石炭との混合販売をスタート



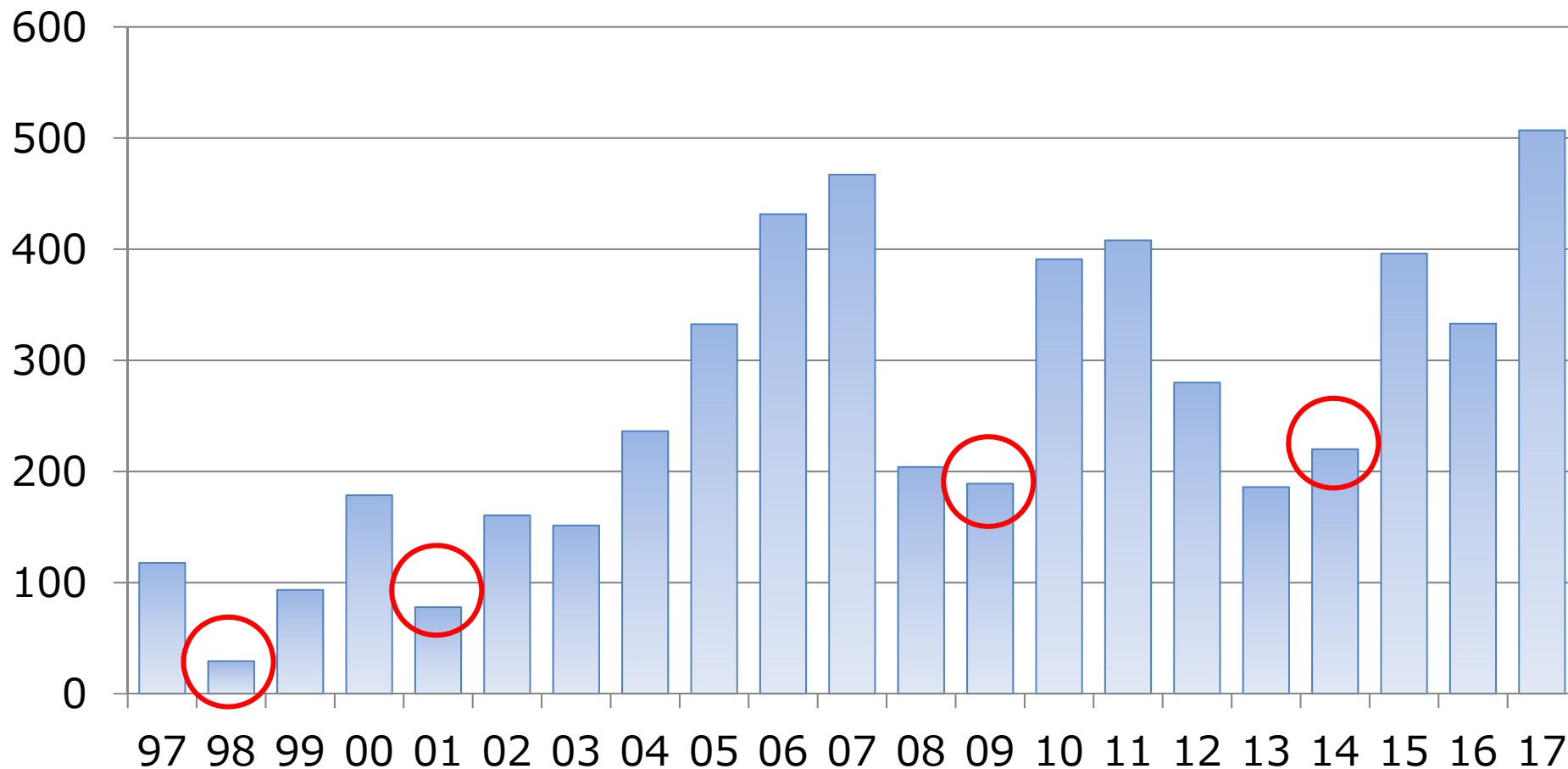
Ⅲ

株主還元の考え方

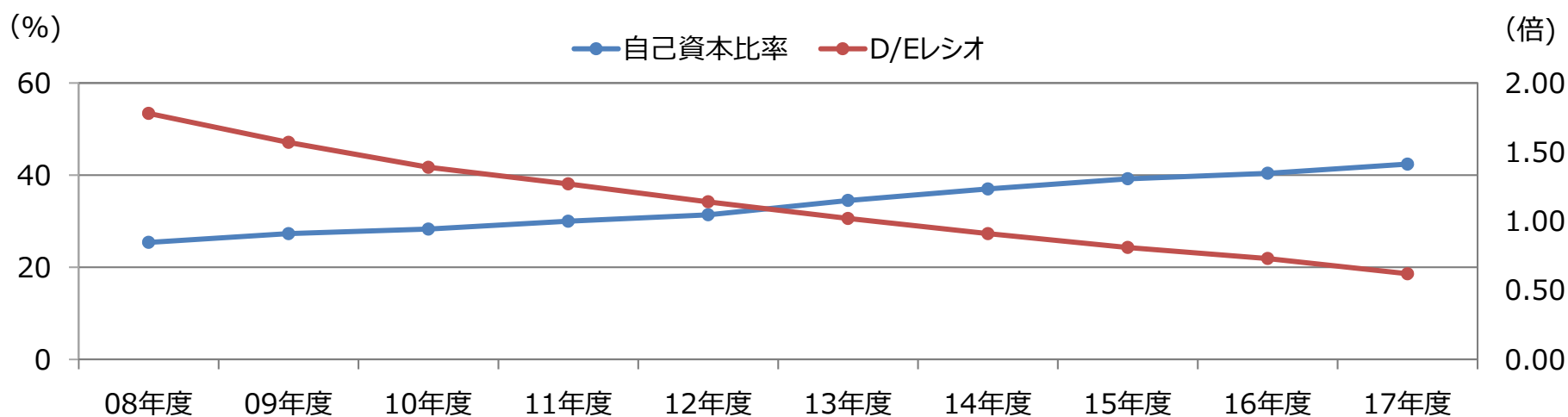
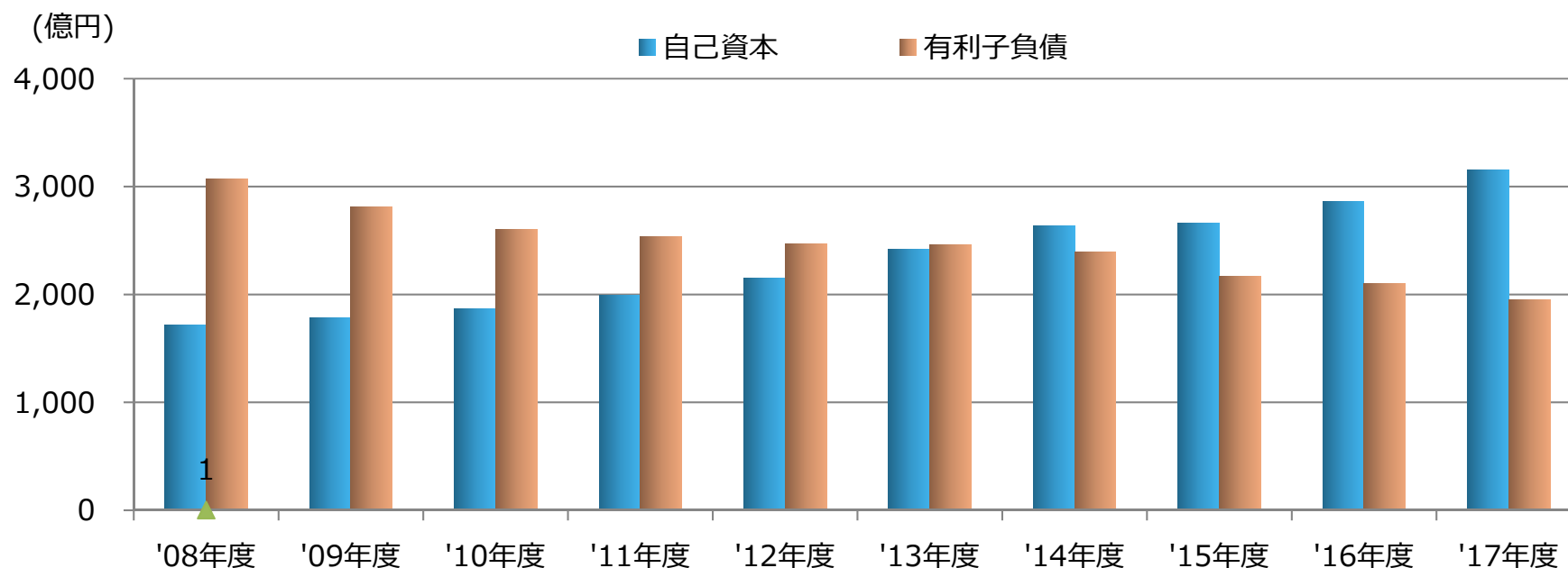


景気後退局面での連結経常利益の谷は着実に切り上がっている

億円



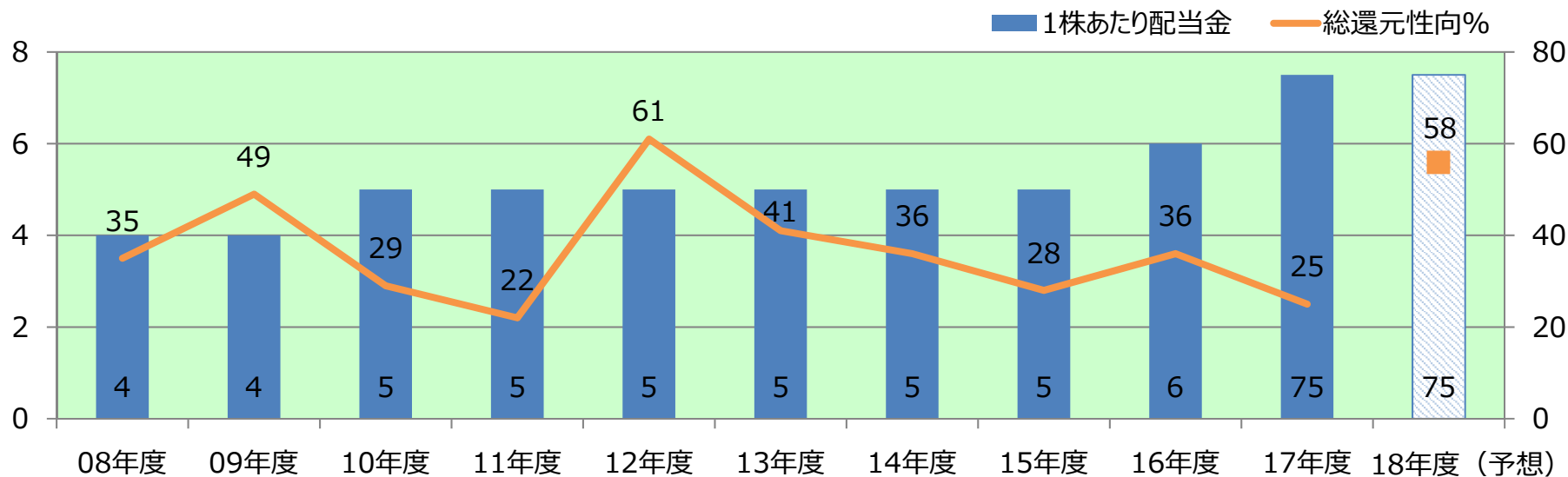
財務体質の推移



■ 株主還元

- ・安定的かつ持続的な配当が株主還元の基本
- ・財務の健全性や将来の投資への備えとのバランスを図りながら利益やキャッシュフローの状況に応じて自己株式取得も
- ・配当と自己株式取得を合わせた連結総還元性向は原則として30%以上とする

➡ **18年度は1株当たり75円の配当を予定
最大取得価額100億円の自己株式取得を決定**



(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。

技術の翼 革新の心

Wings of technology
Spirit of innovation

UBE

本資料における将来の見通しに関する記載は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因の変化によって見通しと大きく異なる場合があります。

そのような要因としては、主要市場の経済状況、製品の需給、原燃料価格、金利、為替相場などがあります。ただし、業績に影響を及ぼす要因はこれらに限定されるものではありません。

本資料の著作権は当社に帰属します。本資料のいかなる部分も書面による当社の事前の承諾なく複製または転用などを行うことはできません。